

科学者京都会議拡大継続委員会報告 11-28-'68

11月28日午後5時より8時半まで東京神田学士会館において
上記の拡大継続委員会が開かれた。

1. 出席者：湯川，朝永，田中正，豊田，小川(岩)，牧，沢田
坂東

2. 会計報告： 11月13日現在 (~~詳細は12月末書面報告の予定~~)

収入の部 名訳新書 (平和時代を創造するために、
4,000部
核時代を超える) 印税 1,138,720円
46,600部
世界原稿料 (勉強会の記録) 30,000円
計 1,168,720円

支出の部 6月8-10日 勉強会費用 (事務局員旅費宿
泊費を含む) 326,199円
三村先生御佛前 10,000円
計 336,199円

残額 832,521円

3. 第18回 Pugwash Conference 報告： 田中正 (世界12国、58国代表参加)

4. 来年度科学者京都会議の相談

来年度の国際および国内情勢の見通しについての討論と
田中報告を中心とする討論を基として次のように一応
の案がつけられた。

- (i) 主テーマとして "Non-Military Aspect of Security" が適当であろう。これは安保とも密接に関連しているし、Pugwash でも真剣にとりあげられるようになってきている。
- (ii) このテーマでやるにはかなりの準備勉強が必要である。この素材として田中氏が持ち帰った Galtung 論文^{*}と各地で検討したらどうか。田中報告によれば、この論文は *peace-structure* の三原則として *interdependence or symbiosis, egalitarian or symmetry, and multifariousness or entropy* とあげているが、アジアの中の日本として見直ししてみたい。
- (iii) 来年夏は一応、声明と出す会議と開くこととめどにして、2月中旬までに東京、名古屋、京都を中心とする小グループの勉強会を行い、4月次には "準備会議" と^{もちろ}開き、声明の骨子をつくり、6月次には会議と開くようにする。上記の進行状態によれば "勉強会" に切りかえることもある。
- (iv) (iii) の小グループ勉強会には従来の科学者京都会議のゲストの方は問題ではないが、新に加えてもう一人々については事前に経緯等の了解と得ておくこと。

* copy は近期中 拡大送達委員会に配布の予定

(V) ホグレルーアの勉強会の費用は継続費から支出すること
とも考えられるから、必要な場合は事務局に連絡
すること。

5. Prof. Rotblat → Prof. Yukawa 書簡 (14th Aug. '68) の返事

- ① (i) 日本で national symposium を開いたことの報告
(ii) 日本で international symp. を開くことは今のところ
いろいろ問題があるため seems to be difficult
(iii) Rotblat の本を参考にしてもらって "核時代を越
える" と出した。そのお礼として ^和 寄贈
(ついでに SIPRI, Bull. of the Atom. Scientists にも)
目次は英訳を添える。

以上の案と文章にして Prof. Yukawa → Prof. Rotblat 書
簡を早急に出す。

以上

豊田利幸